食を通した子育て支援～連絡帳の活用～

〈代表代表者〉　會退　友美　（東京家政学院大学・助教）
〈共同研究者〉　池谷　真梨子　（和洋女子大学・助教）
伊藤　優　（広島大学・准教授）
酒井　治子　（東京家政学院大学・教授）
林　薫　（白梅学園大学・教授）
齊藤　真弓　（社会福祉法人 清遊の家 うらら保育園・園長）
宮古　紀美恵　（公益財団法人　鉄道弘済会　上木崎保育所・主任）

研究の概要

目的：子育て支援において用いられる連絡帳に着目し、特に離乳食が終わり食事の内容が幼児期に移行しながらもまだ食事の内容の工夫や食べる援助が必要な１歳児クラスの支援の状況を調査する。

方法：研究１では主任クラスの担当者によるグループインタビューを２回実施し、計14名にインタビューの協力を得た。子育て支援における連絡帳の役割等についてたずね、逐語録を作成後、内容について分析を行った。研究２では、日本保育協会の会員施設の１歳児クラスを担当する経験年数の最も長い保育者を対象に GoogleForm を活用した質問紙調査を実施した。

結果：研究１の分析結果から、保護者が連絡帳に記載する食事に関する内容は食事の時間の調整を行うなど、保育に活用されていることが示された。さらに保護者の記載内容から、保育者は子どもの状況だけでなく、保護者の心情や家庭の状況も推察し、子どもと保護者双方の支援をしようとしていることが明らかとなった。また、連絡帳は子育て日誌としての役割も有しており、保護者が子育てにポジティブな感情を持てるように保育者が書き方を工夫していた。そして、連絡帳の情報は栄養士等との給食会議やカンファレンスを行う中でも活用され、他職種が連携を密にすることで、より多面的な子どもの理解につながっていることが示唆された。研究２では、保育者は連絡帳を保護者とのつながりとなると考え、そのために書き方を工夫していることが示された。信頼関係の構築により、連絡帳は保護者が心情を吐露する場所となり、保護者支援の糸口となっていることがわかった。また、各家庭の状況を得る手段となっており、関係職員が情報を共有しながら状況に合わせた保育が展開されていた。

まとめ：子育て支援における連絡帳について検討した結果、担当保育士と保護者のつながりをつくるために重要な役割を果たし、その関係をもとに保護者の悩みなどを相談できる場ともなっていることがわかった。連絡帳から得られた情報は、関係職員によって共有され、それぞれの子ども、家庭に合わせた支援が実施されていることが示された。

キーワード：子育て支援、連絡帳、保育、食事

Ⅰ．はじめに

近年、保育の質の向上において、より一層、個に応じた保育実践が求められている。そのためには、保育者が、子ども一人ひとりの発達や個性、家庭生活での状況などを把握し、その時々の子どもの様子に合わせた丁寧なかかわりが求められる。また、保護者と連携して子どもの育ちを支えることも重視されており、「保育所保育指針」第６章においては、「保護者とともに、子どもの成長の喜びを共有すること」、「保護者との相互理解を図るように努めること」が述べられている。さらに「保育所保育指針解説」の第４章においても、子どもの姿を丁寧に伝え、育ちを保護者と共に喜び合うことの重要性が述べられ

ている。こうした保護者との連携を図る１つのツールとして、連絡帳が挙げられる。林は、連絡帳は保護者支援の重要な方法の一つになり得ることを明らかにしており、保育者にとっても、連絡帳のやり取りが子どもの生活全体を理解した保育につながると述べている[1)]。

石川らの報告では、３歳未満児において96.7％が連絡帳を活用して家庭状況の把握を行っていた。また、家庭から施設、施設から家庭への伝達事項も多岐にわたり、家庭での食事の時間や内容、子どもの様子、園での食事の状況についてなどを記載し、共に子どもを育てるための記録を通して子育て支援が行われていることが示された[2)]。

その他、連絡帳を用いた子育て支援に関する報告はいくつかある。例えば、伊藤は保育所を利用する時間的・精神的・経済的に困難を抱える乳児をもつ保護者への支援のあり方について、連絡帳を用いた食に関する子育て支援の継続的な質的検討を行った[3)]。その結果、毎日家庭と保育所で営まれる食事について、連絡帳を通した保育士と保護者のやり取りが行われることで、長期的な視点での支援が可能となり、食事を通して保育士と保護者が共に子育てをする関係を築きやすかったと考察している。このように子育て支援のツールの一つに連絡帳が欠かせない存在と考えられ、特に食にかかわる内容を通すことで連続性のある日々の生活に根差した支援が可能になると考える。

しかし、家庭の食事の内容はさまざまな状況から家庭差があり、保育者が踏み込みにくい内容であるともいえる。「こうしてください」という健康教育上もっともらしく語られる支援は、保護者の気持ちを理解し、「保護者自身の主体性、自己決定を尊重する」支援とは言い難い。そのため、ツールを活用する子育て支援力（保護者支援力）も同時に検討する必要があると考える。片山らは、保育士の保護者支援力尺度を作成し、“保護者の養育力向上に資する直接的支援”、“保護者の心情を汲み取る支援”、“保護者の養育力の向上に資する間接的支援”、“保護者の支援に必要な情報収集”の４下位尺度を示した[4)]。このように、支援にはさまざまな保育士の力が必要であると言え、連絡帳を用いた支援にも同様に発揮されると考える。

また、連絡帳を子育て支援に活用する方法として、保護者と担当保育者との個人間のやり取りだけでなく、対象園児の連絡帳を集団のものとしてとらえ、園に通う子どもたちの生活の特徴を知ることもできると考える。園における食事提供や食に関する計画は、家庭の状況も考慮した内容を検討する必要がある。そのため、連絡帳から得られる在園児の食生活の特徴を踏まえ、食事提供や活動を通した子育て支援も模索したいと考える。

Ⅱ．研究の目的と構成

本研究では、子育て支援において用いられる連絡帳に着目し、特に離乳食が終わり食事の内容が幼児期に移行しながらもまだ食事の内容の工夫や食べる援助が必要な１歳児クラスの支援の状況を調査する。そこで、以下に示す２つの研究を実施する。

1．研究１

主任クラスの担当者によるグループインタビューを行い、各園における連絡帳を用いた食に関する子育て支援のあり方を調査する。子育て支援における連絡帳の役割や活用の際に気をつけていることなど、連絡帳というツールをどのようにとらえ、活用しているのか、実践における様子を取りまとめる。

２．研究２

実際に連絡帳を用いた食に関する子育てが１歳児クラスでどのように行われているのか、１歳児クラス担当者を対象として広く調査を行い、現状の支援の様子や各園内の連携の様子などを把握する。

Ⅲ．研究１

１．方法

１）対象者とインタビューの方法

保育所等に勤務する主任クラスを中心とした保育者等を対象にグループインタビューを２回実施した。各回７名の保育者を１グループとして、合計14名を対象に行った。１つ目のグループは、A法人の主任研修会後に協力を得られた７名を対象とした。２つ目のグループでは、東京都B区にあるC園より同区の各園に声をかけ、協力を得られた７名を対象とした。各回約90分実施した。インタビューは司会者１名、観察者２名で実施し、発言をICレコーダーで録音した。インタビュー前に研究の主旨を説明し、同意を得た者から署名を得た。また、同意を得た者から役職や経験年数等についての属性について質問紙にて回答を得た。インタビューは事前に半構造的に作成したインタビューガイドに沿って進めた。インタビューの内容は、①連絡帳は誰が書いていますか？　また、書く人以外で連絡帳を見たり、連絡帳に関わったりする人はいますか？　②連絡帳の内容について、担任保育士以外の保育士、栄養士や調理

員、看護師などと話すことはありますか？　③自分が連絡帳を書くときに大事にしていることがあれば教えてください。また、職員に対して連絡帳の書き方についてどのような助言をしたりしますか？　④１歳児の家庭での食事について、保護者が困っていたり、担任と保護者の想いや考えが異なっていたりすることはありますか？　また、保育者が家庭の食事や子どもの食事場面で気になる姿があった時はどのような対応をされますか？　連絡帳ではどうですか？ 送迎時の時はどうですか？ ⑤０～２歳児において、連絡帳に記載することは、どのような内容でしょうか？　例えば、子どもが食べた量、内容、食べ方、食に関する活動の様子などはいかがでしょうか？　⑥本日の時間を通して、食に関わる子育て支援とは、どのようなものだと思われましたか？また、連絡帳のよさとは何でしょうか？　明日以降、本日の内容を受けて、職員に助言したいと思ったことなどはありましたか？　の６つとし、順不同に自由に発言してもらった。

２）分析方法

インタビュー後、IC レコーダーから逐語録を作成し、研究者２名で連絡帳を用いた乳幼児の食事に関する活用実態を明らかにした。

３）倫理的配慮

本調査では、インタビュー協力者に対して、インタビュー開始前に調査の目的や内容等についての文書を配布し、司会者が口頭で説明した。インタビューに協力できない場合や中断する場合にも不利益が生じることはないことを十分に説明した上で、同意書を提出して頂いた。なお、本調査は東京家政学院大学倫理審査委員会にて承諾を得た（第10号）

２．結果　インタビュー協力者の属性

インタビュー協力者14名の年代は、20代１名、30代４名、40代２名、50代７名であった。経験平均年数は22.6年であった。役職は、施設長２名、主任兼副園長２名、主任８名、保育士２名であった。また、運営主体は私立保育園12園、公立保育園１園、公設民営園１名であった。献立は14園すべて自園で作成したものであり、給食の提供状況は自園調理（直営）12園、自園調理（外部委託）２園であった。

３．結果と考察　インタビューの事例検討

インタビュー分析の結果、①連絡帳の活用について、②連絡帳使用への意識、保育者と保護者との連絡帳のやりとりの実際、④保育者同士の高め合い、⑤園内での連携についての５つのカテゴリーが生成された。以下に、インタビュー時の発話をもとに考察を行う。なお、ＡはＡ法人のインタビュー内容、ａは東京都Ｂ区にある園のインタビュー内容であり、インタビュイーごとに数字を割り振った。

３－１．連絡帳の活用

１）園内での活用

①保育活動への活用

事例１

> Ａ２：今、０歳の担任が必ず全員で共有しているのは起きた時間とか眠った時間とか。やっぱり心地良く過ごすために１日どうやって一人一人の子どもたちを支えていくかっていうところでは、食事の時間に眠くなってはご飯も食べられなかったりするので。午前寝をするかどうかを職員と共有して順番に寝かせる。おやつの後に寝かせる子ももちろんいて、その子が食事を楽しく食べれるように。あと、ミルクが飲めるように。ただ、やはりそうしても食べられない子はこの間も半量だったんですけど、ミルクを多めに作って飲ませたりってことはその場その場で担任と共有して進めています。

事例２

> Ａ７：ミルクの時間が日によって違うんです。すごい早く起きちゃって。０歳児とかも「今日は４時に飲んでそこから飲んでません」って連れて来たりとかするから。そうすると時間をクラスの担任でちょっと今日早いからもう今作らなきゃねとか。あと、離乳食の進み具合で食べなかったら「ミルクをちょっと多めに作ろうか、今日」とか言いながらクラスの担任で話し合ってやっています。大きいクラスの子も早く起きてるとやっぱ眠くなっちゃうし。ちょっと早めにお布団に入れるような。「眠い子は寝ようね」とか言いながら。そこはその子に合わせながら。

事例１のように、乳児は食事の時間に眠くなってしまい、食べられなくなってしまうことはよくある。

また、事例２のように、乳児期はミルクの時間が一定ではなく、家庭の状況等によっても与える時間を調整する必要がでる。多くの乳児期の連絡帳は食事に関する項目だけでなく、睡眠時間や起床時間、体温や排便の有無等様々な項目を記載できるようになっている。子どもが食事の時間に食べることに集中できるように、保育者はこれらの記載内容を踏まえた上で、食事場面での子どもの様子を総合的に見ながら食事の時間や睡眠時間を調整していることが示唆された。

事例３

ａ１：保護者の方によっては一言で済んでしまう方もいるし見えないぐらい小さい字でいっぱい書く方もいるんですけれども。例えばちょっとしか書いてなくてもこれだけ体調面とかいろいろ書いてあると、お子さんの様子がちょっといつもと違うなといった時に連絡帳を見ると、いつもより寝る時間が短かったりとか食事が取れてなかったりとかっていうところで把握できたりしています。

事例３のように、その日の子どもの様子で気になることがあった場合に、保護者が連絡帳に記載している内容を確認することで、なぜ子どもがそのような状態になっているのかの背景要因について把握することができる。子どもの保育所の生活は家庭での生活から続いているので、家庭での生活状況を把握して保育に反映させる必要がある。その家庭での生活状況を把握するツールの一つとして、連絡帳が活用されていることが示唆された。

事例４

Ａ９：食べ慣れていない野菜とか。例えば冬瓜だったりゴーヤだったり、ズッキーニだったり。食べることは食べるんでしょうけど、そんなに頻繁に食卓に上がってくるような食材じゃないものが保育園で出るとやっぱり初めてのものはなかなか子どもは口にしないのでそんな様子を保護者にも伝えたり。でも、こっちはこっちでたぶん家庭ではやっぱりこういう食材は使わないんだね。でも、保育園でそういう体験ぐらいしてみたいよねってことでメニューに積極的に取り入れたり。やっぱり初めての食材は残食が多かったりするんですけど、でもちょっとずつ慣れていけるようにっていうのは考えてます。
（中略）
Ａ５：さっき先生がおっしゃったゴーヤとか冬瓜とかあまり家庭では使わないような食料、材料については園で野菜栽培にして子どもたちと一緒に育てて、それを収獲してそれを食材にして調理すると子どもたちは食べます。
Ｑ１：身近になりますからね。
Ａ５：食べたりするから。それを保護者にサンプルケースだとかレシピを出したりすると。園で喜んで食べましたって聞くと、じゃあ、うちでも作ってみますとか。でも、作ってみたけど食べませんでしたっていうのが多いんですけど。
Ｑ１：多いんですよね。
Ａ５:同じものを園でね。そんな感じです。でも、そういうことで保護者の方と共有したり、食材に反映ってなると野菜栽培での野菜が入ってきますね。

事例４の中で、保育者は連絡帳から家庭で食べ慣れていない食べ物の情報を得るとともに、その情報をもとに家庭の食卓で出ない食べ物を積極的に保育所の給食や活動の中で子どもたちに提供していると語っている。その際、食べ慣れていない食材は残食が多いこともあり、栽培やクッキングをすることで子どもたちが食べられるように工夫しているとのことである。連絡帳の家庭からの記述から食事に関する情報を読み取り、保育園での献立や保育活動に生かすことで、子どもの経験の幅を広げていることが読み取れる。

②保育園側の記録としての活用

事例５

ａ２：紙で出しているので、親御さんからは手紙で書いてきていただいてファイルにどんどん足していってっていう形でやらせてもらってます。園での振り返りはパソコンのほうに置いてるので、そこを見て記録として残してます。
（中略）
ａ４：園としても健康状態も含めて振り返りにも使われたりだとか。日々の連絡ノートとしてというところと個別の日誌としても活用できるようにしていて、こちらも複写式のものを保管して活用しているという形になります。

保育所は園児の記録を残していく必要がある。連絡帳とは別に記録として残す方法もあるが、連絡帳には日々の子どもの様子が記載されているため、保育園側の記録としても活用されていることが示された。保育園では記録として残す書類が多くあり、保育者の負担も大きい。そのため、連絡帳を活用して個人の記録を残すことで、保育者の負担を減らすことができるのではないかと推察された。

2）家庭での活用

事例６

> a２：親御さんの手元に残るようにっていうところで１年の成長具合とか、やっぱり年度末に受け取ってもらうことでこの１年こんなに成長したんだとか、振り返ってみて１年前はこうだったなとかこんな時期があったなっていうのを考えてもらうというか、そうやって思ってもらえたらいいなっていう思いです。（中略）結構保護者の方も子育ての日記としても使われている方もいるので、おうちでの様子とかも細かく書かれていて大事にずっと０歳児から入園されてる方はずっとおうちで保管して取っておいたりしてるっていうお話も聞いてはいて。

連絡帳は保育所と家庭をつなぐツールとして用いられているが、事例６のように連絡帳を子育ての記録として保護者の手元に残るように活用している事例がみられた。保育所に通っている子どもの保護者は仕事をしていて忙しく、子育て日誌などをつける時間もないと推察する。そのため、連絡帳を子育て日誌として活用することで保護者にとって子どもの貴重な記録として残り、連絡帳が子育て支援の一部となっていると考えられた。

３－２．連絡帳使用への意識

1）保育者から保護者への連絡帳の記述内容

事例７

> Ａ６：連絡帳には、子どもの成長が書かれている。だから、なるべくマイナス面は書かないようにっていう。連絡帳もそうだったんですけどアプリになったらそれがもっと共有されてしまうので、そこら辺は気を付けているところです。

事例８

> Ａ５：内容はほんと一人一人保護者が前向きになれるような。ちょっとお願い事伝えるにしてもいいことを伝えつつでちょっとって感じだし。

事例９

> Ｑ２：いいことを書くには子どもを一人一人ちゃんと見たりっていうその観察力みたいなところとかも必要になってくるのかなと思うんですけど。午前中の活動の様子から何を切り取るかっていう視野というか、そういうところとかも話し合ったりとかされるもんなんですか。いいことっていうのはどういういいことなんだろうって。
> Ａ６：いいことっていうか、子どものありのままの姿ですよね。さっき先生がおっしゃってたようにその子のエピソード。今日１日の中の過ごしてる姿ですよね。その中で特にすてきだったところとか可愛らしかったところとかそういうところを。

事例10

> Ａ９：２歳児だと３歳児に移行する前にお箸の練習をしていく形になるので、その前段階でスプーンの持ち方を握りじゃなくてカエシ持ちにしながら食べる練習を進めていくような形になるんですけど。今の段階はカエシ持ちのやり方を園では進めてます。上手にこういうふうに持ちながら食べられるようになってきましたとか、どうしてもやっぱ無意識になっちゃうと握りになっちゃうんですよねとかって言って、おうちでも意識してもらえるとありがたいですとかっていうような感じの使い方とかは伝えながら。後半になってお箸の練習を始めていきますよってアプローチしながら。おうちだとエジソンの箸たぶん使ったりとかそういうことが多いんだと思うんですけど、園だとばらの箸になっちゃうのでそういうこともお伝えしながら園では頑張ってますよってことをお伝えさせてもらいながら。

連絡帳を通して、保育者と保護者は相互に子どもの情報を交換するとともに、それぞれの子育てや育児に関する考え方等も伝え合うこととなる。そのた

め、保育者の伝え方や何気ない言葉が保護者にとっては自分の子育てを否定されることや、自分の頑張りに気付いてもらっていない気持ちを持つこともある。連絡帳を通した乳児の食事に関する支援を検討した伊藤は、保育者が母親の思いや状況を考慮して支援していても、保育士からの忠告や助言のタイミングや伝え方に少しでも母親が不信感を抱いてしまうと母親がそれに対して応答することはなかった事例を示しており[5]、このことからも保育者の伝え方の重要性が示唆される。そのため、事例７のようにマイナスの言葉を書かないように留意することや、事例９のように、保育者が子どもたちの素敵だったところや可愛い行動を伝えることで、保護者は見ていなかった子どもの頑張る姿や子どもの育ちを知ることができ、それが結果として保護者にポジティブな感情を醸成することにつながっているのではないかと推察される（事例８）。仕事と子育ての両立で余裕がなく、子どもへの関心が乏しかった若年の母親と保育士との「食事の連絡帳」でのやりとりを検討した伊藤は、母親の育児に対する不安の軽減や子育てに対する自信や意欲を高めるようになった様相を明示している[3]。このことからも、事例10のように、具体的に子どもの保育所でのエピソードを伝えることや、保育所での何気ない子どもたち同士の様子を記入することで、保育者から保護者に意見を押しつける形にならないよう保護者に子どもの頑張りを伝えられているのではないかと考えられる。

事例11

ａ４：こちらからの記入の内容に関しては、１日の子どもの姿というところでは大まかなというよりかはその子が今日こんなことをして過ごした。そこの短い欄ではあるんですけれども、その中でも保護者にも育ちを感じていただけるようなことをメインで書けるようにというところを心掛けています。

事例12

ａ１：シンプルなのかもしれないんですけれども、否定的なことはやっぱり書かないように気を付けて。心配事とかは口頭とかでお話しするようにして。やっぱり保護者の方が見て安心できるような。保育園でこういうことしてたんだなって情景が分かるような書き方にしたいなって伝えています。さっきの互恵型みたいなのを書くときってやっぱり遊び込まないと書けなくて。いろんな行事とかの練習とかでばたばたしてる時っていうのは振り返った時にあれ？ あの子何してたっけっていうことがあるんですけれども、そうじゃない時はやっぱり毎日は難しいんですけど、やっぱりできるだけ子どもたちとしっかり遊び込むとそういう一人一人のエピソードが自然と浮かんでくるかなっていうところがあるので、そういうふうに書けるといいねっていう話はしています。

連絡帳には保育者がその日の子どもの様子を保護者に向けて記載する欄がある。事例11～12のように、保育者が子どものその日のエピソードを記載する際に、子どもの行動を保護者がそのエピソードを読んで情景が思い浮かぶような書き方の工夫をしていることが示された。また情景が浮かぶような書き方ができるようになるためには、保育者としてどこまで子どもと関わることができているかが重要であると語られていた。これより、連絡帳の書き方と保育者の力量に関連があると推察された。

２）保育者から保護者への伝え方

事例13

Ｑ１：例えば、お友達同士でちょっと会話を楽しんで食事ができてくるのはこの離乳が終わって食べる側、食べさせてもらう側の関係から子どもが自分で食べたりお友達と食事を楽しんだりにちょうど広がっていく時期だと机とかいすの配置だったり、子どもたちの食べる食卓の雰囲気みたいなのが変わってくるのっておうちにどんなふうに伝わっていくのかなっていうのも見ていただくしかないんですかね。
Ａ５：ドキュメンテーションになりますか。
Ｑ１：そこがドキュメンテーションなんですね。
Ｑ２：ドキュメンテーション。なるほど。
Ａ７：動画配信とかもしているので。
Ｑ１：動画配信してるんですか。
Ａ７：食事の様子の場面を切り取って。

事例13で語られた保育者はアプリの連絡帳を使用しており、文章だけでは伝えられない食事場面の様子を動画や写真を使用しながら、保護者に伝えていることが述べられた。口頭でも伝えにくい子どもたちの様子を様々な媒体を利用しながら伝えている様子が見受けられる。

事例14

Ａ６：違ったように変換されて受け止められてしまうとやっぱり伝わったとは言えないので、「ちょっとこの件に関しては担任と調理スタッフのほうでお迎えの時にお話しさせていただきたいんですけれどもお時間ありますでしょうか」みたいな

事例14では、保護者が連絡帳に質問を記載していた場合などは、齟齬が生じないように連絡帳の記載内容をもとに連絡帳の書面で伝えるか、口頭で伝えるかを判断していると語られた。連絡帳は文章のみで記載するため、書き手の思いが伝わらず、読み手に誤解を与える可能性もあるし、それが書面で残り続ける。そのため、内容によって伝え方を臨機応変に変える必要があることが示唆される。

事例15

ａ３：文字で残せる内容であれば看護師が何か別のメモみたいなところを付けてそれを貼ったりするんですけど、ちょっと文字に残すとニュアンスが伝わりづらいっていうものに関してはそのお母さんからの質問とかをちょっとスルーして保育の活動だけ書いて、そのことについてはお迎え来た時に看護師とちょっとお話ししましょうとか園長と相談しましょうというようにしています。
Ｑ１：直接話していただいてっていう形ですね。

事例16

ａ４：特記事項だったりとか文字に残すっていうところがちょっとどうかなっていうときには口頭だったりとかそこからちょっと面談につなげたりっていうところがあるので、その連絡帳で全てを完結というよりかは内容としては育ちだったりとかそういった部分がメインかなと思います。

事例17

ａ４：内容の返答についても担任から返せるものと、担任ではなくて主任や園長が返したほうがいいものっていうところでそこはちょっと相談をしながら記載をしてお返しする時と口頭でやりとりをする場合というような形を取っております。

事例15～17のように連絡帳に記載する内容と口頭で伝えた方がよい内容は分けており、保護者からの質問への返答も内容によって主任や園長に相談する場合もあることが示された。

事例18

Ａ１：個人差があるので。それ（個人それぞれに提供した離乳食）を全部献立ケースに出すわけにはいかないので、０歳児に関しては別で写真撮ってアプリにくっつけて送ってあげてます。

事例19

Ａ６：献立表とか食育便りなんかを今までは紙で渡してたんですけれども、それがアプリに添付して送れるようになったので保護者の方と献立の話をする時に保護者の方もこうやって見ながら具体的に深い話ができるようになったのが良かったっていうふうに思ってます。

事例18は、アプリの連絡帳を使用している園の保育者の語りである。離乳食の量や内容は個人差が大きいため、子どもごとに写真を連絡帳アプリに添付することで、今日何をどのくらい食べたのか保護者が一目で理解することができる。（実際に食べた量は別途記録し、共有している）また、事例19では、献立表や食育便りも連絡帳に添付することで、その情報をもとに保育者と保護者が子どもの食事に関わる話を深めることができていることが述べられた。連絡帳は保育者と保護者をつなぐコミュニケーションツールであり、連絡帳を用いて保護者が子どもの保育所での食事内容や食事の様子を知ることができるだけでなく、保育者が子どもを丁寧に理解しようとしている様子や態度も保護者が知る契機となっているのではないかと推察される。

３－３．保育者と保護者との連絡帳のやりとりの実際

１）保育者による連絡帳からの見とり

事例20

Ａ２：やっぱり献立書いてありますけどほんとにこれ食べてる？っていうところも見ています。担任たちは。

事例21

Ａ６：連絡帳を見て夕食と朝食を見ると、園では何でも食べてほんとに好き嫌いもなく、間食もしておかわりを毎日するような子がほんとに夕飯がお好み焼きだけとか親子丼だけとかハンバーガーだけとか１品物が多くて。朝もロールパン１個とかコーンフレークだけとか。野菜はいつ取ってるのかな、保育園以外でとかっていう子が（いる）。
Ｑ２：そういう時はどういうふうに。例えば、まず連絡帳とかではなくてもう。
Ａ６：そうですね。面談の時に少しずつ話を広げていくような感じで。そうすると「実はこの他におみそ汁が用意されてるんですけど書いてなかったんです」とか「お好み焼きの中にいっぱい野菜を入れてるんです」とかそういった答えが返ってくる場合もあるし。園ではこうだから「お休みの時にちょっと作り置きにしといておくといいかもしれないですね」なんて言って。職員も私はこうしてますよとか言ってちょっと話をしたりしています。

事例20では、保護者が書いてきた連絡帳の情報を鵜呑みにするのではなく、保護者の生活状況も踏まえ、保育所で子どもを保育する上で必要な事項については多角的な視点から連絡帳の内容を読んで保育に活かそうとしている様子が読み取れる。一方、事例21では、連絡帳の情報と保育所での実際の子どもの様子を考慮しながら保護者の子育ての実態を把握しようとしている。家庭の食事の話をもとに、面談でより深く家庭の状況を聞いたり、さりげなく保護者にアドバイスをしたりすることで保護者の意識の変化を促そうとしており、保育者の工夫が読み取れる。

事例22

ａ３：メニューに対してすごいな、おいしそうだなぐらいにしか思わないですけど、やっぱり毎日パン、パン、パンってなっちゃってるとこの子大丈夫かなっていうふうにちょっと気になったりするっていう感じですかね。

事例23

Ａ３：前の日の夕ご飯と朝ご飯が書いてあるじゃないですか。そうすると朝ご飯もお国が違かったりすると食の文化も違うので、朝食のところに毎日ミルクしか書いてないとかっていうふうなときに、他の食材だったりとか料理とか食べてるのかなって、そこで気付いてこちらから声掛けてやりとりしたりっていうこともあったりとか。そこの献立のところからお話ししたりっていうことはあります。

連絡帳には保護者がその日の献立を記入する欄がある。その献立の内容から、保育者は家庭での食生活について把握していた（事例22）。また、日本とは異なる食文化の家庭には、連絡帳に記載されている内容を参考にしながら、保育者から保護者に声をかけて食事内容を把握していた（事例23）。

事例24

Ｑ１：書かない方もやっぱりいらっしゃる？
ａ５：逆にそういうところからそのご家庭の食に対する考え方っていうのもくみ取れたりするかなって。ほんとに細かくご飯のメニューを書いてくださる家庭と、こう言っては何ですが、ばって走り書きのように書いてある家庭というところもあるのでそこからも読み解けるというか。考え方に触れるかなって思ってます。

事例25

ａ４：逆に連絡ノートだといつもはすごく毎日のように書いてきていた保護者が書かずに来る時に、ちょっと忙しいのかなとかそれでちょっとキャッチできることもあったりとか。保護者とのやりとりで気になることがあった時にその後にさらっとしか記入がなくなった時とか、ちょっと大丈夫かなとか。何かそういう保護者の

家庭での背景だったりとか心情っていうのも意外とそこから読み取れるっていうのもお話を聞いててそれがあるんだなって。

連絡帳の書式は決まっているが、そこに記載する内容や文字数は保護者によって異なることが語られ、保育者はその書き方から家庭の考え方を捉えていることが示された（事例24）。また保育者は、保護者の連絡帳の日々の書き方の変化からも保護者のその日の心情や家庭の状況を推察していることが示された（事例25）。

２）保護者からの食に関する記述内容

事例26

Ａ２：炊飯器が壊れてるのでどうやったら子どもにご飯を食べさせたらいいですかっていう。ちょっと的を射てるかどうか分かんないですけど。離乳食でおかゆが作れない。電子レンジはあるよね、電子レンジも壊れてる。いや、どうするっていうのを給食と担任と相談したことはありますけど。返すことができないじゃないですか。炊飯器買ってとも言えないですし（笑）。ガスレンジはないんです。そういったことが一例だけありましたけど。あとは何となく返せます。そこで家庭背景が浮かび上がってきたので園と役所と連携を取る。
Ｑ１：そうですよね。今、伺いながらちょっと社会福祉的な。
Ａ２：そのようだったので赤裸々に書いてきたお母さんを褒めましたけど。
Ｑ１：そうですね。私も書いてくださって良かったなって今。
Ａ２：全然食事が進めなくて離乳食を始められなかったお母さんで。担任と栄養士が個人面談とかまでして伝えたことをえっ、何だったのではなくて、お母さんの困った感に寄り添ってなかったってことで反省をしたんです。
Ｑ１：でも、それが言える雰囲気があったんでしょうね、お母さんに。炊飯器も壊れてて電子レンジも壊れててってことが出せたんだなって。
Ａ２：結局なかったんです。お母さんとお父さんは家でご飯食べないんです。

事例27

Ｑ２：そういうもっと知りたいなって思うご家庭にはどういうふうにアプローチされるんですか、先生方。書いてくださいみたいな強要じゃないですけど、声掛けみたいなのはされたりするんですか。連絡帳は置いといて対面でカバーするっていう。
Ａ５：責めてる感じでしょうかね。
Ｑ２：責めてる感じ。
Ａ５：そこで関係つくってそんな気持ちになってもらっての連絡ノートに慣れる感じでしょうか。

事例26は炊飯器も電子レンジもない家庭からの相談によって、保育者が家庭の状況を把握した事例である。保育所は様々な背景を有する保護者が利用しているため、食事を通してその家庭の困り感が出てくることもある。しかし、丹羽・無藤が指摘するように、その困り感をすぐに保育者に伝えられない保護者もいる[6)]。事例27のインタビューで保育者が語っているように、各家庭によって、事情は様々であるが、まずはその困り感を保護者が保育者に伝えられるよう、保育者と保護者の信頼関係を構築する必要がある。そのような信頼関係を構築する上でも連絡帳が大きな役割を果たしていると推察される。

事例28

Ｑ１：食事の場面のこと考えると、何となく食事のことって食べ物を配膳しなくちゃいけなかったり片付けなくちゃいけなかったり大人は忙しいじゃないですか。そうするとちょっとこの今の、さっきの互恵型っておっしゃったようなことをじっくり観察したりするのって、何となく普通の遊びの場面より難しそうな感じがするんですけどいかがですか。そんなことはない？
ａ２：０歳児クラスさんとかだと手づかみ食べとか離乳食スタートして親御さんも気になっているところじゃないですか。なので、食に関するやりとりって一番多いのかな。０歳、１歳、２歳で見たら。結構そこから家でもこうしてみますとか。もちろんおうちでの様子を聞いてあげて、じゃあ、園でもこうしてみますねっていうやりとりが結構生まれているのかなって思う時があるんですけど。だんだんスプーンが上手になってくる１歳、２歳ぐらいになってくると

何かだんだんちょっとずつ活動が、だんだんお友達とのやりとりが増えてくるとそっちのほうに重きを置くというか。
　親御さんも誰と遊んでるんだろうか、今は誰と。連絡帳にも何々ちゃんとこうして遊んでいましたよとかっていうのを書くと、今うちの子は何々ちゃんと一番やりとりが多いんですねっていうところを見ると、だんだん比重っていうか気になるところが変わってきて、内容もこちらとしてもそういうところに重きを置くというか。そっちのほうが豊かに書けるようにはなってくるので、だんだんちょっと食事については少なくなってきてしまってるところがあるのかなと思います。

事例28では、連絡帳に記載する内容が０歳児クラスは食に関する記載が多く、１，２歳児クラスになると食事に関する記載が減り、友達とのかかわりについての記載が多くなることが語られていた。子どもが０歳から１，２歳になると保護者の関心が食事よりも友達とのやり取りに変化し、保護者の関心の変化に伴って保育者が記載する内容に変化がみられることが示唆された。

事例29

Ａ２：やっぱりちょっと食のこだわりがあるお子さんの事例とかで園でも困っててどうしたらいいですかみたいなのは。大体食のこだわり系が多いかな。白米だけしか食べられないとか、ほんとに極端に食べる量が少なくてこのままでいいんだろうかみたいな相談とかがあったりするかな。

事例29は、食に関する課題を抱える子どもに対する事例である。乳児期の食に関する保護者の困り感が強いことは多くの先行研究で指摘されている[7)]。偏食や遊び食べなど乳児期は食に関する気になる行動が現れやすい時期である。食事に関する困り感は子どもの健康にも直接かかわることであるがゆえに保護者の不安が大きく、保護者からの相談が多い子どもの行動なのではないかと推察される。

３－４．保育者同士の高め合い

事例30

Ａ５：それ（連絡帳の記載量）はその園によって。うちはいっぱい書く先生とあっさりの人と。この子にいっぱい書いてあげる先生とそうじゃないのとばらつきが出ちゃってちょっとこちらから見てどうかなと思ったので。「気持ちは分かるけれども、一応皆さんで何年も書いていくわけだから大体の字数決めませんか」って皆さんに言っていって。担任の先生にこんな感じの内容でこのぐらいの行数でって皆さんが決めてくれて、「じゃあ、それはなるべく守るようにしていきましょうね」って言って。

事例31

Ａ５：見ますよね、リーダーの先生が。新人の先生が入る時。
Ｑ１：リーダーが連絡帳入力したのを見て。
Ａ５：確認して。しばらく慣れていくまでは毎日。うちはリーダーなので。仕事にしちゃったと思うので。新人の先生がクラスに入った時はリーダーの先生が慣れるまでは毎日ノートをチェックというか。その先生まず書いてみて、それを見て大丈夫だったら送信っていう形になりますよね。
Ｑ１：こういうことも書くといいよみたいなのもそこで助言してくださって。
Ａ５：アドバイスもあります。
Ｑ１：だんだんにこういう内容っていうものが身に付いていくって感じなんですね。何となく分かってきた。

事例32

Ａ７：内容とかもたぶん全体に向けて何々しました、何とかでしたみたいに全員が同じ感じじゃなくて、その子のエピソード交えてお母さんたちも読んだその姿が思い出せるような感じでは書いてほしいなっていうのは前に話したことがあって。やっぱり何人も書くからどうしても名前だけ変えて同じような感じになっちゃう人もいるので。
Ｑ１：いますよね、笑。
Ａ７：そこは何か読んでても面白くないし、保護者に伝えるのはとても大事だから何かエピソー

ド含めて書いてほしいなって。

事例33

a３：僕は前にＢで研修であった〇先生が連絡帳の書き方について研修を何年か前してくださって、その時報告型。今日は何々をして遊びました。元気でしたみたいな形の連絡帳が多い中で簡単に書かれてしまうんですけど、やっぱ保護者は子どもの思いがどうだったかとかどんな情景だったかって浮かぶような互恵型。「互いに恵む」って書く互恵型が一番もらってうれしいんだよっていうようなお話をされてて。ただ、それを書ける人っていうのはすごく少ないから毎日それを書くとしたら技術が要るけども、週に１回ぐらいはそれを目指して書けるといいねっていうお話をされてて、すごくそれは感銘を受けてＡ保育園に居る時に職員みんなにこういうふうにしてみたらどうだろうって提案したんです。

事例30は保育者によって連絡帳の記載量にばらつきがでないように、目安となる字数をある程度きめることで、保護者が保育者に不信感や不安感を与えないように配慮していることが語られている。また、事例31・32は先輩保育者から新人保育者への連絡帳記入に対する助言について語られている。新人保育者の中には連絡帳記入に苦手意識を持っている場合も多い[8)]。そのため、新人保育者は先輩保育者の連絡帳記入の仕方を見て学ぶことや、実際に連絡帳を書く際には記述内容を先輩保育者にチェックしてもらい、そこでアドバイスをもらうことで、少しずつ連絡帳の記載内容や記載の仕方を学んでいく仕組みをとっていることが述べられていた。その際、事例32では、連絡帳の書き方について、保護者が保育所での子どもの様子を具体的にイメージできるようにエピソードを交えて書く等保育者間で伝えあっていることが述べられている。事例33では、連絡帳の書き方について園外研修で学んだ内容を園内の保育者に伝えていることが述べられている。

連絡帳の記載内容や記載量は保育者によって異なってくる。多忙な保育者にとって、連絡帳の記載は時間を取られる作業となる。しかし、子どもたち一人ひとりのエピソードを丁寧に記載することで、保護者に安心感を与えることができることや、保育所内での子どもの様子を含めて成長を実感することが可能となることからも、先輩保育者が新人保育者に伝えるアドバイスの１つとなっていることが示された。

３－５．園内での連携

１）担当保育士以外・他職種との情報共有

事例34

a５：見る側は毎朝看護師も見てます。あと、主任か副主任も見るように回ってくれてるというような状況で。１人担任のところは１人が全員分チェックするんですけど、複数担任はその複数の人が全員確認するように毎朝各クラスに出勤というか、入ったらノートをまず見るっていうようなルーティンというか、になってます。
Ｑ１：クラスに置いてあるノートを主任さんとかも見にきてくださる？
a５：はい。
Ｑ１：看護師さんも見に来てくださる？
a５：看護師は必ず見に来ます。
Ｑ１：それは非常勤というか時間的なパートタイマーの方ももちろん同じ？
a５：非常勤さんについては必ずっていうことではなくて「ちょっとこれ見といて」って。正規職員がこれは全員で見たほうがいい内容だなっていう時には非常勤さんにも見てもらうんですけれども、非常勤さんについては毎朝必ずではないです。

事例35

a３：うちの園では基本は担任保育士が記入し確認をするんですけど、保護者からの質問だとか体調に関する特別な記載がある時なんかは園長先生これっていうふうに職員が持ってきたりだとか看護師と一緒に相談するようなことが多いかなというふうに思います。非常勤についてはこれはみんなで周知したほうがいいねっていうものは読み合わせますけど、基本的に非常勤の先生がうちは書くことがないので、その方たちは見てもいいけど別に特別見るのは義務付けられてるわけではないという感じですかね。

事例36

a４：Ｂ保育園でもやはり基本的には担任が記入をしてっていうところではあるんですけれども。クラス担任の正規職員は必ず目を通すという流れになりまして、その他にやはり看護師と主任が毎朝ラウンドをして内容を確認するというところで。

事例34～36では、連絡帳を確認する職種について語られた。連絡帳は基本的に担当保育者が毎朝確認し、非常勤保育者は正規の保育者が確認しておいた方がよいと思う内容と判断した場合に確認するような体制がとられていた。また、園長、主任、看護師が連絡帳に目を通すこともあることが述べられていた。

事例37

a２：ちょっと前に毎朝同じメニューを食べてきてるなって、振り返っているとずっとだなっていうのがあって。夕飯の献立とか、これは保護者の方に助言するかどうかは別として栄養的に見たらこういう栄養素は足りてるんですかとかっていうのを確認して一緒に見せてもらって相談させてもらったりとかっていうのはあるんですけど。日常的に栄養士さんとはなかなか。

事例38

a４：日常的に栄養士や調理師が確認するということはなくて、やはり何か気になることだったりとか相談したいなってことがあれば記入してもらう。

事例37・38では連絡帳の記載内容によって、保育者から栄養士に相談し、保護者への回答を栄養士に求める場合があることが述べられていた。そして、保育者から栄養士に相談した事例として、以下のような事例が語られた。

事例39

a４：ケースとしてはアレルギーに関することとか。ただ、それも明確にアレルギーの場合は保護者に直接担任はやりとりっていう形になるんですけど、園としてはちょっとアレルギー反応に近いんじゃないかなっていう時に保護者の方の気付きといいますか、どうなんだろうなっていう。保護者がまだ気付いていらっしゃらなかったりとか大丈夫だろうというような気持ちでいらっしゃる時とかにちょっとどうかなというところで相談をしたりとか。

事例40

a５：０歳児の特に第一子の方だと離乳食の進み方とかっていうのは結構クエスチョンが増える機会とか。ちょっともしかしたら迷ってるかもしれないなとか悩んでるかもしれないなっていう方に関しては栄養士とつなげたりとか担任が対応できたりもするんですけれども。適宜っていうところで栄養士が登場してみたりとか。あとはちょうど昨日あったんですけど、「うちの子これが大好きでメニュー教えてください」っていうのがあって栄養士のＳちゃんって呼んでるんですけど、「Ｓちゃんにちょっと聞いておきます」って言って。ちょっとＳが今夏休み頂いてて不在なのでつなげておきますねみたいなやりとりをしたりとかしていて。栄養士も結構手書きでメニュー書いてくれてそれを保護者に渡してくれたりもするので、そんなやりとりは結構あったりするかななんて今思ってます。

事例41

a６：まだ２歳でたぶんおなかいっぱいがちょっとまだ分からないのか、「まだ食べたい」って言うけどそれを何かこう。でも、あげないと泣いちゃうし。でも、あげ過ぎもどうなんだろうって悩まれちゃってちょっと栄養士の先生と１回お話ししてみたいですっていうふうに言ってもらえたので、じゃあ、って言って時間を設けて３人でお父さんと栄養士と私とでお話しするっていう機会をつくったりはしてて。

事例42

a４：食事は取っているのに体重が増えていかなくてどんどん減ってしまうという状況があって。それはちょっと体の問題もあったんですけれども、そういった家庭にもいろいろと家庭の状況で食事の内容もさまざまだったりとかもするので健康面だったりとかそういったところで心配だったりとか気になることがある時とかに相談したりとか。こっちで関わってもらうということはあります。

事例43

ａ６：あとは一緒で、やっぱ子どもたちの好きなメニューを聞いてくるお母さんが結構多くて。うちの園はクックパッドに給食室用のアカウントを作って今上げてて。それを園便りにもこういうのを今始めましたっていうのでお知らせして。

保育者から栄養士に相談した事例として、食物アレルギーに関する内容（事例39)、離乳食の進め方に関する悩み（事例40)、食事量に関する悩み（事例41)、食事量はとれているが体重が減少してしまう事例（事例42)、保育園で提供しているレシピの要望（事例43）が語られた。栄養士は食の専門家であるので、保護者の食の悩みに関しては栄養士が対応できるような体制がとられることが望まれる。連絡帳は保育者と栄養士が連携して保護者の食の悩みに対応するツールとして活用されていることが示唆された。

２）調理担当者との連携時における活用

事例44

Ｑ２：給食会議。例えば給食会議の話題でそのケースっぽいのってどういう事例とかがあったり。
Ａ２：うちはネパールのお子さんが５月から入ってきたんですけれども、お父さんは英語が通じるのかな。日本語は全く喋れない。お母さんは話すことは分かるけど片言で食事はネパール。お父さんがカレーの飲食店をされてる方で。離乳食を始めるってなった時に離乳食のチェック表があるんですけど、日本語なのを英語に訳し伝えてもなかなか伝わらず、英語が喋れる栄養士さんに喋ってもらって。でも、それでもやっぱりなかなか試してもらえなくて実際何回もやりとりをしたんですけど。そういったことを給食会議で共有しています。今も。
Ｑ２：継続して？
Ａ２：継続してます。まだ中期１で今度中期２に上げるんですけども。なので、なかなか食が進まないし豆のスープとかしか飲んでないので。給食もその彼女のうちを知るってところで、やはりお父さんにも来てもらって園の食事を見てもらうことでちょっと私が担任に投げ掛けて先日お父さんに来てもらって子どもに食べさせてもらう。お父さんはお子さんに食べさせてるものを作ってきてもらって、お父さんに食べさせてもらうんじゃなくてそれは私たちが食べて。栄養士さん、調理スタッフ全員に食べてもらって彼女の家庭を支えていくっていう交流をしました。なので、給食会議では毎回その話をしています。彼女だけではないですけど。いろんな話をして。
(中略)
Ｑ１：その中で食のことを話題に出てくるんでしょうね。そこを中心に話すわけじゃなくて、その子の気になる子だったり背景があるお子さんのことをみんなで共有してたらその中に食の話も出てくる。
Ａ１：そうですね。子どもさんはまずいもの、丼物が駄目だったりいろいろあるのでそういうのは。
Ｑ１：白米しか駄目だったりとかありますよね。確かに。

事例45

Ａ４：あとはやっぱりそのクラス、クラスでそしゃくだったりとか嚥下（えんげ）機能が上手にいかなくて食べ物が喉に詰まりやすいとかっていう話も出たりするので、ちょっと刻みを少し多めにしてもらってもいいですかとかっていう要望を出したりとかっていう話もしながらその子の食べる状況を見てっていう調整も対応させてもらってます。

事例44・45において、子どもの食に関わる検討事項では給食会議を行っていることが述べられている。給食会議の中で、保育士だけでなく、栄養士や調理士等子どもの食に関わる職員が出席する中で、子どもの食に関わる課題を検討する。その際、保護者に来てもらい保育所での子どもの様子を見てもらったり、保護者に普段の家庭での食事を作ってもらい、それを栄養士や調理スタッフが食べて保育所の献立に生かす等、食事を通して個々の子どもや家庭に寄り添った支援を行っている。このような会議の場が、子どもの育ちを見とる契機となり、保護者の状況を踏まえた支援を保育者間で検討する機会となっていることが読み取れる。

事例46

a４：献立会議の時に各家庭のというよりかは日常の食事の風景からの子どもの姿っていうところで、栄養士も食事の時に回ったりとか一緒に食べたりとかっていうこともあるんですけれども。家庭から何か特記でお話があったりするとそこで栄養士に伝わることもあったりとか、献立会議内でも家庭からこういうお話があったっていうところはつながったりもするので、メインとしてはそういった会議の時があるかなという感じです。

事例46では、献立会議の際に保育者から栄養士に連絡帳から得られる家庭の食事状況の情報を提供することが語られていた。本インタビューでは栄養士が日々連絡帳を確認することは述べられていなかったが、会議の場で連絡帳に記載されている内容を栄養士も把握できる体制がとられていることが示された。

４．まとめ

連絡帳は保育者と保護者の情報交換の道具の一つとして、多くの保育所で使用されている。一方、食事も毎日の行為であるからこそ、乳児を育てる母親にとっては、不安に思うことが多い。そのような食事に関する連絡帳でのやりとりの中で、保育者は保護者の連絡帳の記載内容を踏まえた上で食事の時間や子どもへのかかわりを決めているだけでなく、栽培やクッキング活動などの保育活動や献立作成に生かしていることが示された。さらに、保護者の記載内容から保育者は様々な子どもの状況だけでなく、保護者の心情や家庭の状況等も推察し、子ども・保護者両方に支援しようとしていることが明らかとなった。

また、連絡帳は日々の子どもの成長を記録するものとして、子育て日誌としての役割も有しているため、保護者に対する伝え方にも保育者なりの工夫が見られた。具体的には、連絡帳の記載から保護者が保育所での子どもの様子が思い浮かぶような具体的なエピソードを書くよう工夫していたり、連絡帳を読んだ保護者が子育てに対してポジティブな気持ちを持てるような書き方をする等、連絡帳を子育て支援の役割を有した重要なツールとして使用している実態が明らかとなった。特に食事に関しては保護者の不安も大きいため、連絡帳をもとに食事に関するやりとりをする中で、保護者の不安を和らげる効果も大きいのではないかと考えられる。そのため、連絡帳の記載について、ベテランの保育者から新人の保護者に上記のような記載上の工夫が伝えられている実態も示された。

さらに、連絡帳の情報をもとに、栄養士や調理師、他の保育者と給食会議やカンファレンスを行う中で、連携を密に子どもに対応することで、より多面的な子ども理解につながっていることが示唆された。

Ⅳ．研究２

１．方法

１）調査方法

2023年11月、Google Formを用いた無記名のアンケート調査を実施した。アンケート調査への回答依頼は、日本保育協会事務局から組織内の準支部を含む全57支部（または57箇所）の支部事務局あてに組織内メール配信サービス（F-net）にて依頼し、支部事務局より会員施設へメールまたはFAXで周知を依頼した。

調査項目は、連絡帳に関する保育者の思い（11項目）、連絡帳の自由記述欄に関する保育者の思い（９項目）、連絡帳の記述で多い保育場面（８項目）、保護者の記載の相談内容（13項目）、保護者の家庭での食育に関する記述内容（７項目）、連絡帳の保護者記入の保育への活用（６項目）、連絡帳を確認する保育者（７項目）、連絡帳に記入する保育者（７項目）、保育に活用する保護者の記述内容（６項目）、連絡帳を活用した調理担当者との連携（８項目）等であった。

２）調査対象者・解析対象者

日本保育協会に加盟する9,216施設に所属する各園の１歳児クラス担当の先生のうち、対象園での経験年数が最も長い方に回答を依頼した。その結果、321人から回答が得られ（回収率：3.5％）、その内全く回答がなかった１人を除く320人を解析対象者とした（有効回答率：99.7％）。

３）分析方法

得られたデータは、SPSSVer25を用いて記述統計をまとめた。

４）倫理的配慮

本調査では、依頼状、Google Formの最初の画面において倫理的配慮事項を示し、同意を得た上で回答をするようにした。本調査は、東京家政学院大

学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：第17号）。

2．結果

1）対象者の属性

表２－１に示す通り、分析対象者は40代の者が最も多く、経験年数の平均は約19年であり、１歳児クラスの担当回数の平均は約５回目であった。また、対象者が勤務する園の運営主体は、私立保育園が約６割と最も多かった。園の給食提供は、ほとんどが直営の自園調理であった。また、使用する献立は、自園で作成したものが約７割、統一で作成された献立を使用する園が約３割であった。１歳児クラスの保育者１人に対する子どもの援助数は、最も多いのが４人（32.2%）であり、次いで多いのが５人(24.1%）であった。

表２－１　対象者の属性、勤務園の状況

	n（%）
年代	
20代	26（8.2）
30代	82（25.7）
40代	131（41.1）
50代	64（20.1）
60代以上	16（5.0）
計	319（100.0）
経験年数＊	18.9（9.0）
1歳児クラス担当回数＊	5（2.8）
運営主体	
公立保育園	10（3.2）
私立保育園	193（60.9）
公立認定こども園	2（0.6）
私立認定こども園	108（34.1）
公設民営	4（1.3）
合計	317（100.0）
給食提供状況	
自園調理（直営）	284（89.0）
自園調理（外部委託）	30（9.4）
外部搬入	1（0.3）
自園＋外部搬入	3（0.9）
その他	1（0.3）
合計	319（100.0）
献立作成方法	
自園で作成したもの	217（68.5）
行政、法人、企業等で統一作成されたもの	91（28.7）
その他	9（2.8）
合計	317（100.0）
1歳児クラス保育者１人に対する子どもの食事援助数	
1人	4（1.3）
2人	16（5.0）
3人	51（15.9）
4人	103（32.2）
5人	77（24.1）
6人	61（19.1）
7人以上	8（2.5）
合計	320（100.0）

*Mean(SD)

２）連絡帳に関する保育者の思い（表２－２）

まず、連絡帳の読み書きについては、保護者が記載した内容が保育に役立っていると思う者が多く（５以上を選択した者：74.1％）、また保護者の記載を読むことが楽しいと感じている者も多かった（５以上を選択した者：71.2％）。一方、連絡帳を記載することが保育に役立っていると感じている者（５以上を選択）は、66.8％であった。また、自身が連絡帳を書くことが楽しいかどうかについて５以上を選択した者は、42.4％であった。

保護者との連絡帳を通じたやり取りを満足しているかについては、４以下を選択した者が44.7％と約半数いた。一方で家庭の様子を知ることができると感じている者も多く（５以上を選択した者：74.6％）、保護者とのつながりに役立っていると感じている者も多かった（５以上を選択した者：75.6％）。また、連絡帳の内容を同僚と情報交換している者は多くみられた（５以上を選択した者：77.6％）。現在使用している連絡帳の様式に満足している者、保護者が書きやすいかについては、約半数のものが５以上を選択した。

３）連絡帳の自由記述欄に関する保育者の思い（表２－３）

①　保育者の記入欄

保育者が自由記述欄を書くことについて、楽しいと感じている者（５以上を選択）は、45.3％であった。自由記述欄に伝えたいことが書けていると感じている者は回答にばらつきがみられた。また、自由記述欄への記入を難しいと感じている者（５以上を選択）も約４割おり、負担に感じている者（５以上を選択）は、約３割いた。連絡帳の書き方について同僚に相談をしたことがある者（５以上を選択）が約半数いた。読み手である保護者を意識し、安心感を得られるように（５以上を選択した者：77.9％）、楽しいと感じるように（５以上を選択した者：74.8％）配慮する者が多かった。

②　保護者の記入欄

保護者の自由記述欄への記入については、必要だと感じる者（５以上を選択）が約６割おり、保護者にとって負担であると感じる者（５以上を選択）が約半数であった。また、保育者が保護者の自由記述欄を読むことを楽しいと感じている者が多かった（５以上を選択した者：73.6％）。

表２－２　連絡帳に関する保育者の思い

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）
連絡帳の読み書きについて								
連絡帳を書くことが日々の保育に役立っていると思う	316（100.0）	3（0.9）	7（2.2）	43（13.6）	52（16.5）	69（21.8）	53（16.8）	89（28.2）
保護者からの連絡帳の記入を読むことが日々の保育に役立っていると思う	317（100.0）	2（0.6）	4（1.3）	25（7.9）	51（16.1）	47（14.8）	66（20.8）	122（38.5）
連絡帳を書くことが楽しい	316（100.0）	8（2.5）	42（13.3）	61（19.3）	71（22.5）	66（20.9）	39（12.3）	29（9.2）
保護者が書いた連絡帳の内容を読むことが楽しい	316（100.0）	2（0.6）	10（3.2）	19（6.0）	60（19.0）	70（22.2）	51（16.1）	104（32.9）
連絡帳の活用について								
保護者は連絡帳を通した保育者とのやり取りに満足していると感じる	316（100.0）	0（0.0）	12（3.8）	52（16.5）	77（24.4）	91（28.8）	60（19.0）	24（7.6）
連絡帳の記載内容について同僚の先生と情報交換を行っている	316（100.0）	2（0.6）	1（0.3）	18（5.7）	50（15.8）	36（11.4）	71（22.5）	138（43.7）
連絡帳から子どもの家庭での様子を知ることができる	315（100.0）	1（0.3）	4（1.3）	26（8.3）	49（15.6）	61（19.4）	80（25.4）	94（29.8）
連絡帳が保護者とのつながりに役立っていると思う	316（100.0）	1（0.3）	5（1.6）	26（8.2）	45（14.2）	49（15.5）	88（27.8）	102（32.3）
連絡帳は保育を行うにあたって必要なものである	316（100.0）	1（0.3）	11（3.5）	26（8.2）	44（13.9）	45（14.2）	74（23.4）	115（35.4）
様式について								
現在の連絡帳の様式に満足している	316（100.0）	8（2.5）	18（5.7）	50（15.8）	65（20.6）	55（17.4）	73（23.1）	47（14.9）
現在の連絡帳の様式は保護者も書きやすいと感じる	316（100.0）	3（0.9）	22（7.0）	46（14.6）	71（22.5）	64（20.3）	68（21.5）	42（13.3）

1：全くそう思わない、7：とてもそう思う

4）連絡帳記述で多い保育場面（表２－４）

普段、保育者が連絡帳に記載する場面で多いのは、自由遊び、設定保育の場面であった。食事場面はばらつきがみられた。

5）連絡帳における保護者の記載内容

①　子どもの食に関する相談事項（表２－５）

表２－５には、５以上を選択した者の割合が多い順に相談内容を並べた。最も保護者の相談内容として多いのは、好き嫌いや遊び食べなど食事中に子どもがとる行動の悩みであった。次いで、家庭での食事内容に関する相談、食事に関する保護者の不安やいらだち、食事の量が続いた。

②　家庭での食育に関する様子（表２－６）

家庭での食育に関する記述で多いものは、年中行事に関することであった（５以上を選択した者：33.7％）。次に多いのは、園で食べた食事や食べ物に関する会話をしたことであった（５以上を選択した者：27.2％）。

表２－３　連絡帳の自由記述欄に関する保育者の思い

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）
保育者記入の欄								
連絡帳の自由記述欄を書くことが楽しい	317（100.0）	6（1.9）	36（11.3）	63（19.7）	67（20.9）	72（22.5）	50（15.6）	23（7.2）
連絡帳の自由記述欄に伝えたいことは書けていると思う	317（100.0）	3（0.9）	18（5.7）	47（14.8）	70（22.1）	68（21.5）	77（24.3）	34（10.7）
連絡帳の自由記述欄への記入は難しいと思う	316（100.0）	28（8.9）	60（19.0）	55（17.4）	55（17.4）	41（13.0）	41（13.0）	36（11.4）
連絡帳の自由記述欄を書くことを負担に思う	317（100.0）	28（8.8）	69（21.8）	61（19.2）	57（18.0）	55（17.4）	28（8.8）	19（6.0）
連絡帳の自由記述欄に何を書いてよいかわからないことがある	317（100.0）	75（23.7）	80（25.2）	47（14.8）	35（11.0）	45（14.2）	21（6.6）	14（4.4）
連絡帳の書き方について同僚に相談したことがある	317（100.0）	27（8.5）	33（10.4）	38（12.0）	52（16.4）	48（15.1）	63（19.9）	56（17.7）
保護者が読んで安心感を得られやすいように書いている	317（100.0）	2（0.6）	0（0.0）	18（5.7）	50（15.8）	41（12.9）	109（34.4）	97（30.6）
保護者が読んで楽しいと感じるように書いている	317（100.0）	2（0.6）	1（0.3）	19（6.0）	58（18.3）	57（18.0）	102（32.2）	78（24.6）
保護者記入の欄	（100.0）							
連絡帳の自由記述欄を保護者が記入することは必要だと思う	318（100.0）	3（0.9）	10（3.1）	36（11.3）	73（23.0）	54（17.0）	56（17.6）	86（27.0）
連絡帳の自由記述欄は保護者にとって負担だと思う	318（100.0）	9（2.8）	28（8.8）	39（12.3）	86（27.1）	88（27.8）	52（16.4）	15（4.7）
私は、保護者が書いた連絡帳の自由記述欄を読むことが楽しい	317（100.0）	1（0.3）	8（2.5）	20（6.3）	55（17.4）	49（15.5）	69（21.8）	115（36.3）

1：全くない、7：よくある

表２－４　連絡帳の記述で多い保育場面

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）
自由遊び場面	316（100.0）	2（0.6）	6（1.9）	20（6.3）	49（15.5）	43（13.6）	59（18.7）	137（43.4）
設定保育場面	317（100.0）	8（2.5）	6（1.9）	27（8.5）	38（12.0）	37（11.7）	61（19.2）	140（44.2）
食事場面	317（100.0）	3（0.9）	18（5.7）	44（13.9）	77（24.3）	69（21.8）	60（18.9）	46（14.5）
排せつ場面	312（100.0）	16（5.1）	40（12.8）	62（19.9）	84（26.9）	56（17.9）	33（10.6）	21（6.7）
登園場面	314（100.0）	56（17.8）	69（22.0）	58（18.5）	69（22.0）	35（11.1）	15（4.8）	12（3.8）
午睡場面	313（100.0）	56（17.9）	70（22.4）	58（18.5）	69（22.0）	31（10.2）	15（4.8）	13（4.2）
降園場面	317（100.0）	183（59.4）	60（19.5	26（8.4）	29（9.4）	5（1.6）	3（1.0）	2（0.6）

1：ほとんど書かない、7：とてもよく書く

6）連絡帳の保護者記入の保育への活用（表２－７）

担当クラスの連絡帳に記載された家庭の様子について、園内の職員で情報を共有し、対応に関して共通認識をもつことが最も多く実施されていた（５以上を選択した者：69.3％）。次いで、連絡帳の内容から対象児の状態に配慮した保育活動に変更をすること（５以上を選択した者：68.8％）、調理担当者に食事内容の変更を相談すること（５以上を選択した者：61.3％）、園での食事援助の方法を見直すことが多かった（５以上を選択した者：60.8％）。園の食育活動につなげることや献立作成につなげることは少なかった。

7）職員の連絡帳への関わり（表２－８、９）

①　連絡帳の確認

連絡帳を確認する者は、担当保育士が最も多く、次いで非常勤（パート）保育士、主任、園長、看護師、調理担当者の順であった。

②　連絡帳への記入

連絡帳に記入することが多い者は、担当保育士、非常勤（パート）保育士、主任、看護師、園長、調理担当者の順であった。

表２－５　連絡帳における子どもの食に関する相談事項

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）
食事中に子どもがとる行動の悩み（噛まない、好き嫌い、遊び食べ、立ち歩きなど）	315（100.0）	7（2.2）	24（7.6）	37（11.7）	49（15.6）	49（15.6）	62（19.7）	87（27.6）
家庭での食事の内容	313（100.0）	14（4.5）	52（16.6）	48（15.3）	62（19.8）	47（15.0）	35（11.2）	55（17.6）
子どもの食事に関する保護者の不安やいらだち	313（100.0）	19（6.1）	59（18.8）	54（17.3）	56（17.9）	55（17.6）	45（14.4）	25（8.0）
家庭での食事の量	311（100.0）	23（7.4）	49（15.8）	58（18.6）	70（22.5）	50（16.1）	33（10.6）	28（9.0）
食事中の子どもへの関わり方	313（100.0）	33（10.5）	66（21.1）	48（15.3）	68（21.7）	50（16.0）	20（6.4）	28（8.9）
食具の使用の仕方	312（100.0）	44（14.1）	73（23.4）	50（16.0）	53（17.0）	48（15.4）	25（8.0）	19（6.1）
食生活のリズム	311（100.0）	32（10.3）	73（23.5）	55（17.7）	66（21.2）	35（11.3）	24（7.7）	26（8.4）
食事の時間（長さ）	314（100.0）	59（18.8）	72（22.9）	58（18.5）	53（16.9）	41（13.1）	24（7.6）	7（2.2）
間食の内容（甘い菓子、甘い飲み物など）	311（100.0）	45（14.5）	89（28.6）	53（17.0）	53（17.0）	43（13.8）	18（5.8）	10（3.2）
食事環境のつくり方（テレビ等）	312（100.0）	73（23.4）	69（22.1）	53（17.0）	58（18.6）	33（10.6）	18（5.8）	8（2.6）
子どもが食べる食事づくりの方法や調理工夫	312（100.0）	63（20.2）	91（29.2）	59（18.9）	44（14.1）	24（7.7）	22（7.1）	9（2.9）
間食の食べ方	311（100.0）	80（25.7）	96（30.9）	41（13.2）	48（15.4）	29（9.3）	10（3.2）	7（2.3）

1：全くない、7：よくある

表２－６　連絡帳における子どもの食に関する記述内容

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）
家庭で年中行事を行ったこと（豆まき、行事食を食べるなど）	314（100.0）	28（8.9）	61（19.4）	60（19.1）	59（18.8）	45（14.3）	34（10.8）	27（8.6）
子どもが園で食べた食事や食べ物に関する会話を家庭でしたこと	316（100.0）	37（11.7）	77（24.4）	63（19.9）	53（16.8）	43（13.6）	25（7.9）	18（5.7）
子どもが園で収穫したものを家で食べたこと	312（100.0）	100（32.1）	67（21.5）	49（15.7）	44（14.1）	24（7.7）	15（4.8）	13（4.2）
親子で食材の買い物をしたこと	313（100.0）	72（23.0）	92（29.4）	57（18.2）	45（14.4）	28（8.9）	14（4.5）	5（1.6）
子どもが家庭で調理をしたこと	314（100.0）	84（26.8）	79（25.2）	54（17.2）	53（16.9）	30（9.6）	11（3.5）	3（1.0）
子どもが家庭で栽培活動をしたこと	312（100.0）	105（33.7）	88（28.2）	51（16.3）	45（14.4）	14（4.5）	6（1.9）	3（1.0）

1：全くない、7：よくある

表2－7　連絡帳の保護者記入の保育への活用

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
連絡帳の内容を確認後、その子どもの状況に合わせて、食事提供の内容を調理担当者に相談をする	317 (100.0)	8 (2.5)	15 (4.7)	41 (12.9)	59 (18.6)	55 (17.4)	51 (16.1)	88 (27.8)
連絡帳の内容を確認後、その子の健康状態や心情に配慮した保育活動に変更する	317 (100.0)	5 (1.6)	16 (5.0)	24 (7.6)	54 (17.0)	50 (15.8)	79 (24.9)	89 (28.1)
自身が担当するクラスの連絡帳に記載された家庭での食事内容の傾向について、翌月以降の献立作成に反映できるよう調理担当者に伝える	317 (100.0)	82 (25.9)	69 (21.8)	35 (11.0)	47 (14.8)	31 (9.8)	30 (9.5)	23 (7.3)
自身が担当するクラスの連絡帳に記載された家庭での食に関わる様子をもとに、園での食に関する活動につなげる	316 (100.0)	34 (10.8)	55 (17.4)	52 (16.5)	54 (17.1)	55 (17.4)	35 (11.1)	31 (9.8)
自身が担当するクラスの連絡帳に記載された家庭での子どもの食事の様子をもとに、園での食事援助の方法を見直す	316 (100.0)	10 (3.2)	21 (6.6)	34 (10.8)	59 (18.7)	54 (17.1)	68 (21.5)	70 (22.2)
自身が担当するクラスの連絡帳に記載された家庭での様子について、園の職員が内容を共有し、関係職員で対応の仕方について共通認識をもつ	316 (100.0)	4 (1.3)	10 (3.2)	31 (9.8)	52 (16.5)	34 (10.8)	69 (21.8)	116 (36.7)

1：全くやっていない、7：とてもやっている

表2－8　連絡帳を確認する保育者

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
園長	317 (100.0)	69 (21.8)	89 (28.1)	48 (15.1)	36 (11.4)	29 (9.1)	14 (4.4)	32 (10.1)
主任	314 (100.0)	37 (11.8)	65 (20.7)	54 (17.2)	47 (15.0)	39 (12.4)	17 (5.4)	55 (17.5)
担当保育士	317 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (1.9)	38 (12.0)	9 (2.8)	7 (2.2)	257 (81.1)
調理担当者（栄養士・調理員等）	316 (100.0)	157 (49.7)	68 (21.5)	27 (8.5)	25 (7.9)	23 (7.3)	9 (2.8)	7 (2.2)
看護師	237 (100.0)	105 (44.3)	34 (14.3)	25 (10.5)	21 (8.9)	11 (4.6)	10 (4.2)	31 (13.1)
非常勤（パート）保育士	304 (100.0)	32 (10.5)	21 (6.9)	34 (11.2)	42 (13.8)	18 (5.9)	33 (10.9)	124 (40.8)

1：全くない、7：よくある

表2－9　連絡帳を記入する保育者

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
園長	313 (100.0)	211 (67.9)	45 (14.4)	17 (5.4)	14 (4.5)	13 (4.2)	3 (1.0)	10 (3.2)
主任	311 (100.0)	153 (49.2)	55 (17.7)	27 (8.7)	28 (9.0)	20 (6.4)	7 (2.3)	21 (6.8)
担当保育士	318 (100.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	6 (1.9)	38 (11.9)	8 (2.5)	12 (3.8)	252 (79.2)
調理担当者（栄養士・調理員等）	310 (100.0)	222 (72.6)	38 (12.3)	13 (4.2)	19 (6.1)	10 (3.2)	3 (1.0)	5 (1.6)
看護師	238 (100.0)	147 (61.8)	32 (13.4)	12 (5.0)	18 (7.6)	9 (3.8)	9 (3.8)	11 (4.6)
非常勤（パート）保育士	298 (100.0)	82 (27.5)	24 (8.1)	22 (7.4)	41 (13.8)	23 (7.7)	18 (6.0)	88 (29.5)

1：全くない、7：よくある

表２－10　保育に活用する保護者の記述内容

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）
家庭ではどのような食具で食べているか	316（100.0）	23（7.3）	35（11.1）	45（14.2）	63（19.9）	44（13.9）	53（16.8）	53（16.8）
どのような環境で食べているか	314（100.0）	40（12.7）	30（9.6）	56（17.8）	56（17.8）	59（18.8）	40（12.7）	33（10.5）
家庭の食事内容	316（100.0）	38（12.0）	32（10.1）	53（16.8）	61（19.3）	55（17.4）	34（10.8）	43（13.6）
家庭の食事時刻	316（100.0）	44（13.9）	49（15.5）	52（16.5）	64（20.3）	49（15.5）	25（7.9）	33（10.4）
家庭で子どもが誰と食事を共に食べているか	310（100.0）	62（20.0）	64（20.6）	56（18.1）	63（20.3）	30（9.7）	14（4.5）	21（6.8）

1：全く活用しない、7：大変とても活用している

表２－11　連絡帳を活用した調理担当者との連携

	合計	1	2	3	4	5	6	7
	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）	n（%）
園で提供する献立の見直し	313（100.0）	68（21.7）	54（17.3）	45（14.4）	37（11.8）	42（13.4）	32（10.2）	35（11.2）
園で提供する食事形態（大きさや固さ）の見直し	316（100.0）	9（2.8）	13（4.1）	35（11.1）	43（13.6）	44（13.9）	47（14.9）	125（39.6）
園で提供する食事量の見直し	316（100.0）	17（5.4）	20（6.3）	37（11.7）	45（14.2）	48（15.2）	58（18.4）	91（28.8）
園で実施する食に関する活動の計画を立てる	314（100.0）	53（16.9）	49（15.6）	48（15.3）	47（15.5）	47（15.5）	36（11.5）	34（10.8）
園で提供する料理の調理工夫やレシピを保護者に伝える	315（100.0）	22（7.0）	36（11.4）	43（13.7）	45（14.3）	41（13.0）	61（19.4）	67（21.3）
園で提供する食事のアレルギーの対応	320（100.0）	5（1.6）	7（2.3）	11（3.5）	38（12.3）	14（4.5）	28（9.0）	207（66.8）
子どもの食事に関する個別面談	320（100.0）	44（14.0）	34（10.8）	35（11.1）	52（16.6）	38（12.1）	36（11.5）	75（23.9）

1：全くしない、7：よくする

８）保育に活用する保護者の記述内容（表２－10）

保育に活用する連絡帳に記載された家庭の様子については、家庭で使用している食具が最も多く（５以上を選択した者：47.5%）、次いで食べている環境、食事内容、食事時刻、共食相手であった。

９）連絡帳を活用した調理担当者との連携（表２－11）

連絡帳に記載された内容について、保育者が調理担当者と連携する内容についてたずねたところ、最も多いのは、アレルギー対応であった（５以上を選択した者：80.3%）。次いで、園で提供する食事の大きさなどの形態（５以上を選択した者：68.4%）、食事量の見直しが多かった（５以上を選択した者：62.4%）。園で提供する献立の見直しが最も少なかった（５以上を選択した者：34.3%）。

３．考察

研究２では、連絡帳を通した１歳児クラスの担当者に食に関する子育て支援の状況について質問紙調査を実施した。子育て支援のツールの１つである連絡帳をどのように活用し、保育や食事提供とつなげているのかなどを検討した。

１）連絡帳に対する思い

本研究では、保育者が連絡帳の活用をどのように捉えているかを検討した。その結果、保育者が連絡帳を書くことや保護者が連絡帳を書くことは、保育に役立っていると感じている者が多く、保護者が書く内容を楽しんで読んでいる者が多かった。また、連絡帳によって家庭の状況を知り、保育者とつながりをもつことに役立っている様子が伺えた。

しかしながら、保育者自身が書くことについては、楽しいと感じている物は半数以下であった。このことから、連絡帳が保育に活用することができていると感じる一方で、書くことを好む態度は低いと考えられた。連絡帳の自由記述を難しいまたは負担に感じている者が約３割おり、連絡帳の様式に満足していない者も一部いることから、連絡帳のあり方や連絡帳を書く業務のあり方を検討してく課題もあげられた。今回調査対象となったのは、経験年数の長い保育者であるため、より経験年数の短い保育者は今

回の報告よりもこの傾向は強くなると予想される。丸目[9]は、連絡帳の記述に関して、個人差が大きい部分を改善するには、連絡帳の業務の標準化と連絡帳による可能な支援内容の体系化などを提案している。子育て支援において、林[1]は連絡帳の記述内容を１年間追跡し、保護者と保育者の関係の変容におけるコミュニケーションツールとして連絡帳が役立っていることを報告し、子どもの育ちを共有し、両者の相互理解が進む過程を確認している。また、保育者にとって、連絡帳から家庭を含む子どもの生活全体を理解した保育を行うことができることを報告している。

２）保育への活用

３歳未満児では、家庭状況の把握の仕方として96.7％の園で連絡帳を活用しているといわれている[2]。同報告において、連絡帳の家庭から施設への伝達事項において最も多かったのは、家庭での子どもの様子であった。その他、生活習慣として睡眠時間や便について、食事に関しては夕食の内容や朝食の内容などがあげられていた[2]。このことから、連絡帳が日々の家庭状況を把握するツールとして活用されていることがわかる。本研究では、実際にどのように保育に活用しているのかをたずねることとした。子どもの健康状態や心情を読み取り、保育活動を変更したり、食事内容を調理担当者に相談する、援助方法を見直すなどが行われる傾向にあることが分かった。この保育の変更にあたり、関係職員が共通認識をもって対応することも伺えた。

今回、家庭での様子で活用している内容についてたずねたところ、使用している食具、食事環境、食事内容が多いことがわかった。１歳児では、手づかみ食べからスプーン、フォークを使用し、さらに箸も家庭によっては始まる頃であることから、家庭と連携をした対応が求められる時期であるといえる。机やいすの状態、食事中のテレビなどは、子どもの姿勢や食事への意識に影響を与えることから、園での様子も踏まえて記述内容を活用していることが予想される。

しかしながら、連絡帳の食事内容が園の献立に活かされることは難しいことが読み取れた。今回、対象者の約３割の園では、他園も使用する統一献立が使用されていた。一方、今回の調査の26.6%の園が献立に反映できるよう連絡帳を活用していることが示された。このことから、その実際の方法等を検討していくことも必要であるといえる。

さらに、家庭の様子から園での食に関する活動に活用することも難しい様子がみられた。保護者が連絡帳に記載する家庭での食に関する様子について、年中行事の記載が多いことがわかった。園での取り組みを受けて家庭での様子を報告する可能性もあることから、双方向のやり取りが考えられる。年中行事は、食事提供とのつながりも大きい。一般的に行事食と言われる献立はどのようにして決められるのか、連絡帳に記載された家庭での様子も取り込むことで、連絡帳が保育における多様な視点をもって食事提供を検討する資料ともなるであろう。

連絡帳を記入する者は、一緒に生活時間を共にした担当保育士や非常勤職員が書くことが多かった。一方、調理担当者はほとんど記入をすることはない、確認をすることはないという結果であった。連絡帳の役割の一つとして、子どもと担当保育士、保護者と担当保育士のつながりをつくることがあると考えられるため、担当保育士と家庭の関係を支える役割としてその他の職員は存在していると推察された。

３）保護者の相談の場

連絡帳は、保護者の悩みの相談の場でもあった。相談事項では、食事中の子どもの行動に対する悩みについて約６割の者があると回答していた。特に１歳児クラスでは、平成27年度乳幼児栄養調査[10]の結果にもあるように、好き嫌いや遊び食べなどの内容に悩みを抱える保護者が多いと考えられる。母親が子どもに衝動的感情を抱く状況では、睡眠や食事などの生活習慣に関するものが多いことから、食事場面の子どもの反抗的態度に対する保護者の感情を調査した報告もある[11]。食事場面における保護者支援が必要であることが考えられ、今回の調査結果では、４割の者でそのような相談が連絡帳を通じてあることを報告した。またそのような食事場面における保護者の感情について、連絡帳を通じて保育者に吐露できる信頼関係が構築されていることがわかった。

相談ができる関係づくりとして、保育者は、連絡帳の活用が保護者とのつながりに役立っていると７割以上の者が答えた。さらに保護者とのつながりを構築するため、多くの保育者が、保護者が安心感を抱いたり、楽しいと感じるように工夫して連絡帳の自由記述を書くように心がけていることがわかった。離乳期の子どもの連絡帳を縦断的に検討した伊藤[5]の報告においても、食事に関する連絡帳のやりとりが単なる情報交換のツールではなく、保護者と保育士の協同関係における媒介物に変化し、保護者の不安感などを軽減する役割を担うようになっていったとある。保護者と保育士をつなぎ、家庭と園で共に育て合う記録として１歳児クラスでも活用されていることが推察された。

Ⅴ．総合考察

本研究は、研究１では、インタビュー調査により、連絡帳の活用について園の状況を把握している主任クラスの担当者の協力を得て、実際の状況を収集して検討した。研究２では、特に離乳食が終わり食事の内容が幼児期に移行しながらもまだ食事の内容の工夫や食べる援助が必要な１歳児クラスの担当者を対象として調査を実施した。研究１において具体的な支援のエピソードも踏まえ、連絡帳を糸口とする園内の協力体制のもと各家庭に合わせた子育て支援の実際を得ることができた。また、研究２では、日々の保育の中で家庭と共に子を育て合うためのさまざまな場面において、連絡帳の多様な役割を見出すことができた。

両研究の結果から、連絡帳は、保護者と担当保育士の信頼関係を構築するために重要なツールであることが示された。信頼関係を構築するために、担当保育士は保護者がポジティブな感情を抱くよう、子どもの園での具体的な姿を伝えるなど連絡帳の書き方を工夫していた。その結果、保護者は子育てに関する悩みを相談したり、子どもの様子について連絡帳を通じて伝えることができていた。連絡帳は、それぞれの家庭の状況に合わせた支援を実施するため、園内で職員間の情報共有を行い、担当保育士と家庭の関係を他の職員がサポートする役割を担っていることがわかった。

研究１では、連絡帳の記載内容の活用として、食に関する活動として栽培活動やクッキング活動に活かしていることや、献立作成に活用していることが語られた。このことから、家庭と園の生活を一つとして補完し合い、子どもの生活が作られていることが読み取れた。しかし、アンケート調査では、食に関する活動や献立作成への活用はあまりみられない結果であった。今回の対象者が１歳児クラスであったため、まだ家庭で調理をする経験などは少なく、園でも活動として取り入れにくい時期であったことも予想される。しかし、家庭の経験と園の経験を合わせて、総合的な子どもの育ちにつながると考えれば、家庭での様子を踏まえた食の経験を保障していくことも必要であるといえる。連絡帳には、家庭での食の経験の実態を知り、園での経験を家庭と分かち合うツールとしての役割もあると考えられる。

本研究では、保育者の視点での子育て支援のあり方を検討しており、共に子育てを行う各家庭の保護者の意見を得てまとめたものではない。今後、保護者の側からもみた子育て支援のあり方も検討していく必要がある。しかしながら、本研究では、園が実施する子育て支援において、日々家庭と園をつなぎ、それぞれの子ども、保護者に合わせた支援をする上で、連絡帳が欠かせない役割を担っていることを示した。

Ⅵ．おわりに

昔は紙の連絡帳が当たり前であったが、最近ではアプリなど電子の連絡帳を導入している保育園も増えてきた。その背景には、国においても、保育分野のICT化推進に向けて「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン」（令和３年３月）、「保育分野の業務負担軽減 ・業務の再構築のためのガイドライン業務改善実践に向けた事例集」（令和４年３月）などが作成されたこともあり、ICT導入手順の整理や好事例紹介が行われてきたところである。そうした中で、本研究で取り上げた連絡帳もデジタルアプリを使用したものが増え、改めてその意義が注目されてきている。

今回の研究を通して、今まで何気なく傍らにあった連絡帳の意義を保育者自身が問い直すきっかけを提供することができた。保護者支援のコミュニケーションツールとしてだけでなく、保育マネジメントのためのアセスメントツールでもあり、当然それは保育の質をより良くしていくためのものになる。子どもを理解しようとするまなざしこそ、保護者支援になることだろう。子どもの育ちを客観的・かつ・主観的に、嬉しい、面白い、成長したと感じる出来事は積極的に伝えたいものである。園全体で保護者支援の観点からの重要性と共に、保育の質の向上のための意義を共有し、家庭と園の食をつなぐ連絡帳の役割を再構築していきたい。

Ⅶ. 引用文献

１）林悠子．保護者と保育者の記述内容の変容過程にみる連絡帳の意義．保育学研究．2015、53、78-89.
２）石川昭義、矢藤誠慈郎、青木夕貴、他．保育所と家庭との連携に関する研究．保育科学研究．2015、6、1-21.
３）伊藤優．育児に困難を有する保護者への支援に関する検討―「食事の連絡帳」の記述から―．日本家政学会誌．2021、72、333-347.
４）片山美香、髙橋敏之．保育士の保護者支援力の認知と親アイデンティティ及び保育者効力感との関連．日本家政学会誌．2021、72、348-361.
５）伊藤優．乳児に対する保育士と保護者の連絡帳を用いた連携の様相―「食事の連絡帳」のやりとりの分析から―．保育学研究．2017、55、33-45.
６）丹羽さがの・無藤隆．幼稚園における子育て支援を考える．お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要．2004、第１号、33-42.
７）吉池信男（2017）．乳幼児期における食の課題と対策、今後の方向性．保険医療科学．2017、66、566-573.
８）松本和美．保育士を目指す学生のための連絡帳の書き方について．鶴見大学紀要．2010、47、53-57.
９）丸目満弓．乳児保育における保護者支援研究（1）―連絡帳の記述文字数及び保育士―保護者間の応答率の分析―．大阪総合保育大学紀要．2017、12、73-84.
10）厚生労働省．平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要．https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html（最終アクセス2023/12/5）
11）中谷奈美子、中谷素之．母親の被害的認知が虐待的行為に及ぼす影響．発達心理学研究．2006、17、148-158.

謝辞

本研究の実施にあたり、ご協力、ご参加くださいました皆様に心より感謝申し上げます。最後に、本研究を助成してくださいました社会福祉法人日本保育協会保育科学研究所に深くお礼を申し上げます。

付記

本論文は、Ⅰを林、研究１を池谷・伊藤、研究２とⅤを會退、Ⅵを酒井が分担執筆し、全体の執筆取りまとめを會退が行ったものである。